

平成25年度第1回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ : 若い力で拓くおかやまの農業
- 2 日時 : 平成25年4月16日(火) 14:30~16:30
- 3 場所 : 倉敷市船穂公民館 実習室
- 4 参加者 : 県内の青年農業者 7名
- 5 意見内容

(1) 農業経営への取組について(工夫、きっかけ等)

- ・GISを利用した農地管理ソフトを利用した500枚の水田のデータ管理により、事務作業の省力化と経営規模の拡大に取り組んでいる。
- ・結婚を機に、餅などの農産物加工を始めた。現在は、県民局の講習会で知り合った人たちとグループを作り、自らが生産したものを原材料とする加工品の開発に取り組んでいる。
- ・肉用牛経営の合間にFMラジオのパーソナリティーをしており、農業の素晴らしさや魅力がリスナーに伝わるよう努力している。
- ・トマト産地の裂果対策として独自で開閉式遮光システムを開発するなど低コスト化や生産の安定化を図っている。

(2) マーケティングについて(販路拡大等)

○意見・要望

- ・自分で販路拡大ができる人はいいが、できない人も多いため、仲介してくれる人が必要。
- ・マスカットの美味しさを消費者へ正しく伝えることが必要。そのため、まずは、販売店の人にファンになってもらうことが大切。県にもその取組をお願いしたい。
- ・6次産業化が言われているが、商品にするのは簡単でも、定着させるにはその特徴を消費者に丁寧に説明し理解してもらう必要がある。
- ・肉用牛の国内販売にはある程度限界がある。海外進出するためには、差別化が必要である。
- ・海外に少しは出荷しているが、もっと勉強し、将来的は個人で輸出したい。
- ・本場の静岡で岡山のお茶を売ったことがある。否定的な意見も多かったが、静岡茶と違うところに岡山のお茶の勝機があると思った。

○知事の意見

- ・全ての農業が必ず儲かるとまでは言わないが、工夫でまだまだ伸ばせる余地があると思っている。
- ・儲かる農業を考えると、海外への販路拡大は大変楽しみである。
- ・中国の富裕層などでは、安全な岡山の農産物を欲しいという希望が多く、その層に売り込みたい。
- ・ある地域ブランドの農産物が海外で爆発的に売れた場合、産地では急な対応はできない。そこに他の農家にチャンスが生まれる。誰かが上手くいけば、他の人にも必ず恩恵が来る。ただ、新規開拓するのは大変な労力が必要で、県としても支援する価値がある。
- ・今後、国内外でトップセールスを行うが、岡山は条件のいいところで、皆さんが一生懸命頑張っているため、もう少し知名度、認知度を上げて、皆さんの努力が報われるような値段で売れるようにしたい。

(3) 農業に対するイメージと農業体験について

○意見・要望

- ・子どもの頃から農業に関わり、農業に対してよいイメージを持つようになればいい。そうすれば、大人になって農業に携わるような人が増えてくると思う。
- ・農業体験を行う時は、「田植え」や「稲刈り」ではなく、何か楽しいイメージを伝えられればと考えている。

○知事の意見

- ・最初に農業の楽しさを知らないと、逆に拒絶反応が起こる。お話しのように、楽しいことから始めるべきだと思う。